

令和7年度 岩手県 英語教育改善プラン

目標

児童がコミュニケーションの楽しさや大切さを実感し、自分の気持ちや考えを英語で伝えたいという気持ちの醸成と意欲の向上を目指した授業づくりの推進

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☒ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「児童が学習者用デジタル教科書を活用した授業」について、好事例を参考にイメージを共有したことで、改善が見られる。

①「外国語の授業が好き」と回答する児童の割合について、引き続き改善の余地が見られる。
(R6_74%)
県学習定着度状況調査
児童質問調査（5年）

②小中連携において、地域間の差が見られる。

③授業、授業外におけるALT等の参画状況において、課題が見られる。

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①各種研修会を通して、県内で実践されたICT機器等を活用した効果的な指導に関する実証研究事業の成果を周知したことで、授業改善の具体的なイメージを持つことができたと考えられる。

①現行学習指導要領施行後に意欲の低下が見られることから、外国語活動から外国語科へ学習内容や指導方法が発展的に活かされていないことが要因として考えられる。

②小中それぞれの指導内容について十分に理解されず、円滑な接続につながっていないことが要因として考えられる。

③ALTの参画に対する理解に差があり、授業者主導の授業が見られる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②③小中をつなぐ外国語教育推進研修会

全6教育事務所で実施。学習指導要領の趣旨や内容を踏まえ、「指導と評価の一体化」の実現を目指す**モデル授業の参観等**を通して、小・中学校の教員が協議し、小中の円滑な接続のための視点を共有する。また、効果的な小中接続の実現に向けて、お互いの指導内容を理解し、共同カリキュラムの作成を図る。

①②③小学校外国語専科教員研修会

小学校外国語専科教員を対象とする研修会において、ICTを日常的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、ALTの効果的な参画に向けた授業のあり方について共有する。

①②③授業力ブラッシュアップ事業

全6教育事務所で実施する授業改善研修会の際に、言語活動を通して児童の資質・能力を育成する授業について理解を広めるとともに、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の重要性を確認する。

・モデル授業提示の際は、児童と共有する「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標、「パフォーマンステスト」と評価の具体等についても示すこととし、明確な目的・場面・状況の設定と必然性のある言語活動について理解促進を図る。

令和7年度 岩手県 英語教育改善プラン

目標

外国語の学習過程を踏まえた授業実践の推進

日常的なデジタルの効果的活用を含む言語活動の充実と学習評価の改善

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 47% ⇒ R7: 49%)

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用 (AIを除く)
 ☐ AIの活用
 ☐ その他 (パフォーマンステスト含む)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A1相当以上を取得している生徒の割合が増加 (R5 23.4%→R6 26.9%)
- ②CEFR A1相当以上を取得または有すると思われる生徒の割合が増加 (R5 38.4%→R6 47.4%)

未だ改善が必要な点

- ①教員の英語力に係る資格取得の励行 (全国平均を大幅に下回る取得状況)
- ②デジタル教科書の効果的な活用 (活用率の高さを活かし、生徒の英語力をより高められるのではないかな)
- ③言語活動の在り方の見直し※ (生徒の英語力向上に十分寄与していない言語活動が多いのではないかな。外国語の学習過程を踏まえた授業を実践できる教員が少ないのではないかな)
(※) R5調査結果を踏まえた分析
- ④学習指導要領の趣旨を踏まえた授業実践の徹底 (R6全国学調における英語科の指導方法に関する5項目の取組が未だ不十分)

2. 要因分析

- ①県のR6新規事業により県内10校(中3生の1割弱)を対象に4技能調査を実施した結果、取得者の人数が大幅に増加した。
- ②各種技能検定とCEFRの対照関係を整理すること等により、見取りの均一化・精緻化を図った。
- ①②R6より県による支援の在り方を見直し、諸調査を活用したカリキュラムマネジメントや授業改善の観点を市町村教委と共有したり、授業改善に係る事業の見直しを行ったりすることで、学校・授業者への指導・助言の在り方の改善を図った。

- ①調査結果の周知不足や、取得励行の不徹底。
- ②③授業づくりに関する各種資料※が有効に活用されていない。
(※) 全国学調報告書・授業アイデア例、MEXT Channel、県事業実践事例集、等
- ③生徒の実態に応じた適切な言語活動を実施・指導できる教員が少ない。

<不適当な言語活動のイメージ>

- ・十分な英語力を有する生徒に対し、言語活動を行わない/少ない(アウトプット不足)
- ・積極的に言語活動を実施しているが、生徒の英語力を十分に踏まえた活動になっていない(インプット不足)

- ④諸調査を活用した検証改善サイクルの趣旨が十分に浸透していない。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①教育委員会・学校管理職・教員など各階層に対し教員の資格取得を励行するとともに、以下の県事業を推進する。

日常的なデジタルの効果的活用

②③④デジタルの効果的活用による英語力向上事業

指定校方式により、4技能調査を生かした**デジタル教科書やMEXCBTの活用**による英語力向上について研究し、実践の普及・拡大を図る。

- ②③④**授業アイデア例活用促進事業、授業実践アイデア例教材開発事業、調査問題等教材活用による授業改善推進事業**
調査を生かした検証改善サイクルの確立を通して、学習指導要領の趣旨を理解し、**外国語の学習過程を踏まえた授業**ができる教員を育成する。

指導と評価の一体化の充実

③④県独自調査(学習定着度状況調査)の実施

全国学調の問題等を参考とし、**目的・場面・状況を明確に設定した評価問題**による県独自調査(中2対象)を実施するとともに、学校現場における指導と評価の一体化・授業改善に向けた結果活用を支援する。

②③④中学校授業カブラッシュアップ事業

質の高い授業提案を中心とした授業改善研修や、**評価問題の改善に係る研修**を通して、教員の授業改善・充実を促進する。

令和7年度 岩手県 英語教育改善プラン

学校の実態に応じ、技能統合型の言語活動を通じて、身に付けさせたい資質・能力を育成する授業実践の充実
各校の学習到達目標に応じた、外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を育成する授業力の育成

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 47.2%、B1以上 17.2% ⇒ R7 : A2以上 55%、B1以上 22%)

目標

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR B1以上の生徒の割合が増加。
(R5:12.5%⇒R6:17.2%)
- ②求められる教師の英語力(CEFR B2レベル以上)を有する割合が、増加。
(R5:76.5%⇒R6:82.6%)

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2以上の生徒の割合が減少
(R5:48.5⇒R6:47.2%)
- ②授業における生徒の英語による言語活動割合が横ばい。
(R5:82.6⇒R6:82.6%)
- ③技能統合型の言語活動の実施状況は年々改善している(県独自調査より)にもかかわらず、生徒の英語力(CEFR A2以上)に反映していない。

2. 要因分析

- ①高校生対象のイングリッシュワークショップや英語ディベート大会を通じ、英語発信力強化が図られ、英語学習への意欲が高まった生徒が増加したと考えられる。
- ①②研修や学校への個別訪問時に、生徒の資質・能力の育成に向けた「まとまりでの授業づくり」等の授業改善が進んだ教員が増加したと考えられる。
- ①②③本県のパフォーマンステストの実施回数や生徒の英語による言語活動割合は全国平均と比べて高い状況であるものの、パフォーマンステストの内容や技能等が、日々の言語活動の内容や技能等との整合性が取れているよう質的改善が求められる。
- ①②③研修や学校への個別訪問時に、指導と評価の一体化について確認するものの、さらに到達目標を意識した授業改善の質的改善を図る必要がある。
- ①②③研修会参加者が、研修会内容を校内外の英語科教員と共有したり、研修会後の各自の実践内容の共有を充実・改善する必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①①英語発信力強化事業の推進
生徒の話すことや書くことなどの英語発信力強化のため、海外派遣事業、イングリッシュワークショップ及び英語ディベート大会を通じて、参加者自らの考えや気持ちを英語で発信できる生徒の育成を目指す。
- ②令和7年度「教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修」への参加促進を図る。
- ②③各校に応じたCAN-DOリストによる学習到達目標の活用の促進
年間指導計画と結びついた実効性のあるCAN-DOリスト作成の推進とその指導により、各校の実態に応じ、生徒に身に付けさせたい資質・能力の育成を図る。
- ②③英語教育改善シート活用の継続
英語教育実施状況調査結果等に基づく各校の実態に応じた検証改善サイクルの構築と確立を目指す。
- ②③授業（基礎力・実践力・改善）形成事業
対象：基礎力の形成期にある教員/実践力の形成期にある教員/県の指定教員及び希望教員
内容：対象教員への事前指導及び個別訪問を通じ、各校の生徒の資質・能力の育成に向けた、教員の学習指導力強化を図る。
- ③授業実践セミナー・研修会（英語）
授業研修等を通じ生徒の資質・能力の育成に向けた学習指導力強化を図る。
対象：県内の小中高における参加希望教員
内容：学習指導要領を具体化した公開授業や研究協議及び研修会を通して、英語担当教員の授業力強化を図り、生徒の学力向上に資する。

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

岩手県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	51	48.5	53	47.2	55		57		59	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	18	12.5	20	17.2	22		24		26	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	82.6	100	82.6	100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	80	71.5	82	75.1	84		86		88	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	85	77		87		88		89	
		達成状況の把握(%)	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	70	76.5	72	82.6	74		76		78	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	64.6	100	71.8	100		100		100	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	45	38.4	47	47.4	49		51		53	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	85	75.2	86		87		88		89	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	97	91.7	98		99		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100		100		100		100	
		公表(%)	75	71.5		79		80		82	
		達成状況の把握(%)	100	91		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	22	22	24	23.3	26		28		31	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	81	66.7	83		85		87		89	

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	60	66.2	62		64		66		70
		公表(%)	50	41.3	52		54		56		60
		達成状況の把握(%)	50	61	52		54		56		60